北ヨーロッパ学会第 11 回全国大会

於：明治学院大学
2012 年 11 月 10 日

# 越境する人魚

## ハンス・クリスチャン・アンデルセン『人魚姫』と『アウネーテと人魚』

中丸　禎子（東京理科大学専任講師）

**序.**

ドイツ文学の中で北欧文学を論じる／ドイツ文学の中に北欧文学を位置づける
〔背景〕日本における北欧文学研究の組織化・体系化の困難さ
　　国民国家の枠を超えた文学の必要性（世界文学、移民文学）

**１．ドイツ文学とアンデルセン『人魚姫』(Den lille Havfrue, 1837)**

- アンデルセンの伝記研究：アンデルセンの同性愛に焦点を当て、『人魚姫』をジェンダー的観点から論じる
　デーテリング『公然の秘密』(1994)、マール『精霊と芸術』(1995)
　☛半人半魚の人魚姫＝「半分女性的」＝同性愛者アンデルセン
- 人魚モチーフ研究：人魚モチーフを通史的に論じ、『人魚姫』はドイツ・ロマン主義の文脈で重視
　クラース『人魚たち』(2010)、小黒康正『水の女』(2012)
　☛水／女／自然／物質／ポエジー言語
　陸／男／文明／人間／言語
　という図式

→『人魚姫』をデンマーク文学として読むことで、『人魚姫』の独自性を追求
- もとになった作品『アウネーテと人魚』との比較
- ドイツ・ロマン主義文学との比較

**２．『アウネーテと人魚』(Agnete og Havmanden, 1834)**

人間の女性アウネーテと男性の人魚（Havmanden）の悲恋を描いた作品
〔前史〕デンマークの民謡「アウネーテと人魚」
　　デンマークの翻案作品：J. バッゲセン「ホルメゴーアのアウネーテ」(1808)
　　A. エーレンスレーヤ「アウネーテ」(1812)
〔アンデルセンの韻文戯曲〕
- 視点の中心＝ヴァイオリン弾きヘミング（＝アンデルセンを投影 by デーテリング）
- 『アウネーテと人魚』の人魚は、海という空間的な異界と古代という時間的な異界に属する、文明的な他者（比較：クライスト『水の男とセイレーン』(1811)）

**３．『人魚姫』の特徴：『アウネーテと人魚』との比較**

（１）人魚が女性である
（２）視点の中心が人魚姫にある
（３）人魚姫が越境者となる
（４）人魚姫にアンデルセンの自己が投影されている
（５）恋愛が肯定的に描かれている

**４．人魚が女性である意味**

女性を主人公にした方が、結婚によるアイデンティティの完成をより強く印象付けられる

- Havmand＞Mand：男性、夫
- Havfrue＞Frue：既婚女性　　Frøken：未婚女性　　Kvinde：女性
- 『人魚姫』における人魚姫の呼称：
  海の底では、姫君（Prindsessen)、子ども（Barn）
  海面または陸に上がると、小さい海の女（den lille Havfrue)、海の女（Havfruen）
  空に上がると、空気の娘たち（Luftens Døttre）

→人魚姫は、女性としてのアイデンティティを完成させるのではなく、娘＝子どもに戻って、新たな庇護者を得る
人魚姫は、海から陸へ、陸から空へと越境していく

## ５．デンマーク文学『アウネーテと人魚』・『人魚姫』の特徴

・ドイツ語の人魚：Wassermann（水の男)、Wasserfrau（水の女）
☛ドイツ文学：森と湖という閉鎖的な空間で、水の女が陸の男を水中に引き込む
（フケー『ウンディーネ』(1811)、ハイネ「ローレライ」(1824)）
・デンマーク語の人魚：Havmand（海の男)、Havfrue（海の女）
☛アンデルセン作品：海と海岸という閉鎖的な空間で、海の男と陸の女、海の女と陸の男が離散する
〔背景〕デンマーク海上帝国とデンマークの領土喪失
越境者としての人魚姫：アンデルセン自身の水平方向の越境（鉄道を使ってのヨーロッパ旅行）および社会階層のステップアップとパラレル

**【参考文献】**

＜一次文献＞
- Hans Christian Andersen: Agnete og Havmanden. Dramatisk Digt. Kjøbenhavn (Forfattarens Forlag) 1934.
- (Folksvisa) Agnete og Havmanden. http://www.kalliope.org/en/digt.pl?longdid=folke2000013101 (2012 年 9 月 15 日閲覧)
- 下宮忠雄『アグネーテと人魚、ジプシー語案内ほか』(近代文藝社) 2011

＜二次文献＞
- Heinrich Detering: Das offene Geheimnis. Zur literarischen Produktivität eines Tabus von Winckelmann bis zu Thomas Mann. Göttingen (Walstein) 2002
- Jürg Glauser (Hg.): Skandinavische Literaturgeschichte. Stuttgart (J. M. Metzler) 2006
- Andreas Kraß: Meerjungfrauen. Geschichten einer unmöglichen Liebe. Frankfurt a. M. (Fischer) 2010
- Michael Maar: Geister und Kunst. Neuigkeiten aus dem Zauberberg. (Hanser) 2009
- Elisabeth Oxfeldt：Nordic Orientalism: Paris and the Cosmopolitan Imagination 1800-1900. Copenhagen (Museum Tusculanum Press) 2005
- 小黒康正『水の女　トポスへの航路』(九州大学出版会) 2012
- 九頭見和夫『日本の「人魚」像　『日本書紀』からヨーロッパの「人魚」像の受容まで』(和泉書院) 2012

**【発表者連絡先】**

メールアドレス：nakamart@rs.tus.ac.jp
ホームページ：http://www7b.biglobe.ne.jp/~nakamaru_teiko/index.html
（「業績」欄から、これまでに発表した雑誌掲載論文（PDF ファイル）がダウンロードできます。

北ヨーロッパ学会第 11 回全国大会

於：明治学院大学
2012 年 11 月 10 日

## ≪引用集≫

**【引用 1】**

「水の女の物語」は、誘惑手段という点から概観すると、概ね三つの時期に分けられる。第一期は、「水の女」の文学的始祖とも言うべき半人半鳥のセイレンが「美しい声」で「陸の男」を水底へと誘うギリシア神話の世界から、キリスト教の影響の下で次第に半人半魚に変容し、同時に「美しい声」を失う古代末期ならびに中世を経て、ルネサンスに至るまでの時期、第二期は、長らく失われたままであった「美しい声」が近代ドイツ文学において復活し、「陸の男」を聴覚的にも視覚的にも魅了する「水の女」が多様に創出される時期、第三期は、現代ドイツ文学が「美しい声」の消失に基づきながら新しい「水の女」の物語を展開させる時期であろう。（中略）〔『人魚姫』は〕近代ドイツ文学の「水の女」から多大な影響を受け、後に現代ドイツ文学の「水の女」に多大な影響を及ぼす。その限りにおいて、この新たな物語は「妙音の饗宴」の頂点を築き、どうじに「水の女の物語」における重要な転換点となる。（小黒、149 頁）

**【引用２】**

人魚：さようなら、さようなら、アウネーテ！僕たちはぼくたちの墓に沈んでいく。
アウネーテ：お赦しください、聖なるイエスさま！あたしを受け入れて、深い海よ！（Agn. 133）
（中略）
人魚：だけどどんな詩人も深くアウネーテの名前を歌おうとはしないだろう、／心臓が悲しみと欠乏で血を流す者ほどには。（Agn. 138）

**【引用３】**

人魚：ぼくはあなたの思いを知っている、あなた自身が何者かも知っている。／もしもあなたが男なら、あなたは誇らしく波に乗り／ゆっくりとした、死の単調さから去っていくはずだ！（Agn. 31）

**【引用４】**

アウネーテ：ゴルゴダと楽園の海も見た？／きっと、海の彼方の東にあるんでしょ？
人魚：ぼくはたくさんの巡礼団を送ったよ／マホメットの月が十字架の上に輝く場所、／ギリシアの誇り高い神々の像たちが、／半分壊れて、草に隠れて横たわっている場所へ／そこでぼくは学んだんだ。神々でさえも死ななくてはならないと！（Agn. 29）

**【引用５】**

アウネーテ：ああ、小さな像がみんな、みんなあたしに背を向けた！／死んだ人たちがお墓から歌ってきた、母さんの亡骸をあたしは見た――／あたしはあなたにはついていけないわ、天国に行きたいと思うなら！（Agn.131-）

**【引用６】**

あの人たちはきっと考えてもみないでしょう、美しい小さな人魚（den lille Havfrue）が下に立って、キールの方へ白い両手を指しのばしていることなんて」（Hf. 89）

**【引用７】**

そしておばあさまは、8 つの大きな牡蠣を姫（Prindsessen）の尻尾に挟ませました。彼女の高い身分を示すためです。「すごく痛いわ！」小さな人魚（den lille Havfrue）は言いました。（Hf. 91）